

令和7年度

阿賀町総合計画審議会

資 料

総合計画について



令和7年8月28日
阿賀町総合計画審議会事務局

計画の位置付け

将来の目指すべき町の姿を明らかにし、今後の町政運営の総合的・基本的な指針として、各分野のあらゆる計画やビジョンの基本となる最上位の計画です。

計画の構成

(1) 基本構想

まちづくりの基本理念と目標とする将来像を展望し、総合的かつ計画的な行政運営に当たっての目標と、これを達成するための基本的な施策の大綱を明らかにします。

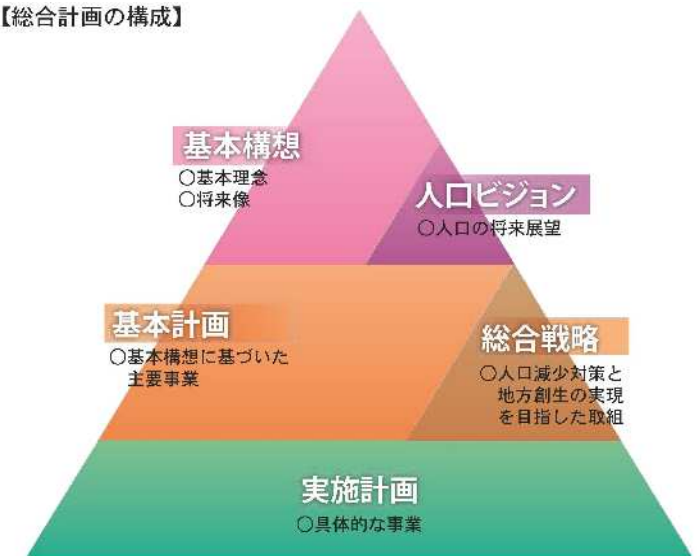
(2) 基本計画

基本構想に基づき、現状と課題や基本構想が描く将来像を実現するための施策を体系化し、その具体的な手段を主要事業として明らかにします。

(3) 実施計画

基本計画に示す施策に基づく事業内容を示す計画です。国・県の基本方針や社会情勢等の変化を勘案し、具体的で実効性のある計画として策定するもので、毎年度における予算編成及び事業実施の指針となる計画です。

【総合計画の構成】



計画の期間

基本構想は10年

基本計画・実施計画は5年

・基本構想

2025年度を初年度とし、2034年度を
目標年次とする10か年計画

・基本計画、実施計画

前期（2025年度～2029年度）

後期（2030年度～2034年度）

区分・年度	前期 5 年					後期 5 年				
	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
基本構想	基本構想									
基本計画	前期計画					後期計画				
実施計画	前期計画					後期計画				

基本構想

豊かな自然・かがやく文化・みんなで築く安心のまち

○ 基本理念

豊かな自然	阿賀町の素晴らしい大地や山河を基盤に
かがやく文化	地域の伝統や歴史を大切にしながら新しい文化を
みんなで築く	この地に暮らす人たちが一緒になって築きます
安心のまち	誰もが安心して暮らせるまちを目指して！



○ 目標とする将来像

自然と共生するまち（ゆとり・潤い）	豊かな自然を次世代へ引き継ぐための環境保全や創造・再生に取り組むとともに、再生可能エネルギーや阿賀町の花である「雪椿」等、自然を生かした地域資源循環型社会の形成を目指し、環境にやさしいゆとりと潤いのある生活を実感できるまちをつくれます。
文化があふれるまち（希望・活気）	地域の歴史や伝統を生かしながら、教育・芸術文化・スポーツなどの活動を充実させることで、人や地域との繋がりを深め、夢と希望を持っていきいきと生活できるよう、地域ぐるみで教育や文化活動を支えるまちをつくれます。
活力ある産業のまち（連携・発展）	農林水産業・商工業・観光業の産業間連携を高めるとともに、地域資源やデジタル技術を活用し、生産性の向上や産業全体の高付加価値化を推進することで、地場産業の発展と活性化を図り、若者が夢と希望を持って働くことができる産業のまちをつくれます。
やすらぎのあるまち（安全・安心）	子どもからお年寄りまで、住み慣れた地域で心身ともに元気に暮らせるよう、充実した保健・医療や福祉サービスを受けることのできる仕組みづくりと、激甚化・頻発化する災害への備えや地域の防犯力の向上、生活を支える社会インフラの整備を行うことで、安全・安心のまちをつくれます。

基本計画

基本目標



基本目標 1

豊かな自然環境の保全と地域資源活用の サイクルを推進する

自然環境の保全と創出

森林の健全な育成、森林公園の魅力向上・利用促進、中山間地域等直接支払制度を活用した農業者支援、農地や農業用施設の適正な管理 など

地域資源循環型社会の形成

再生可能エネルギー導入の推進、公用車のEV化、バイオマス発電事業化の推進 など

基本目標 2

未来を拓く人を育み、文化・スポーツを通じた 豊かな生活を実現する

① 学校教育の充実

デジタル化の推進、体育館の空調整備、阿賀黎明高等学校の魅力化推進 など

芸術・文化やスポーツの振興

生涯学習に関するリーダーの育成、屋内運動施設の整備、地域クラブの活動支援 など



基本計画

基本目標 3

若者が夢と希望を持って働くことのできる
産業の振興を図る



① 地域の特性を活かした農林水産業の振興

農畜産物の品質維持・向上及び販路の拡大、森林資源の利用促進と整備の推進、有害鳥獣被害の防止 など

商工業・建設業の振興

起業支援と雇用の促進、中小商工業者・建設産業の経営基盤強化 など

② 観光・交流の推進と魅力の発信

外国人誘客・受け入れ体制の充実、観光資源の魅力化推進、広域観光の取組の推進 など

基本目標 4

出産・子育ての希望をかなえる支援の充実を図る

① 子育て支援の推進

就労と育児の両立支援・子育て支援、母子保健の推進、食育の推進 など



基本計画

基本目標 5

誰もが健康で思いやりのある
生活ができる体制の充実を図る



福祉・介護・医療サービスの充実

新たな高齢者見守り体制の整備、障がい者が自立できる基盤づくり、
介護予防と包括的なサービス支援の充実 など

健康づくり・健康管理の推進

疾病予防の充実、健康づくりの推進 など

基本目標 6

安全・安心な暮らしを確保する

強靱な社会基盤の整備

道路整備と維持・長寿命化、災害に強いまちづくり、
上下水道の整備と適正な管理 など

防災・減災対策と消防・救急体制の強化

危機管理体制・防災体制の充実、空家等対策の推進、消防団施設・装備の充実 など

きめ細やかな公共交通体系の構築

生活公共交通体系の再構築、高速バス運行の維持、交通機関の利便性の向上 など



基本計画



基本目標 7

多様な人材の活躍推進と 新しい人の流れをつくる

地域コミュニティと多様な人材の活躍推進

男女共同参画社会づくりへの意識改革、地域コミュニティの促進、
集落の実情に合わせたサポートの推進 など

⑧ 移住定住支援と関係人口の創出

移住支援体制の強化、住環境整備の支援、関係人口の構築による魅力
発信、産官学の包括的な連携の推進 など

基本目標 8

デジタル技術活用による地域課題の解決と 誰一人取り残さないまちづくりを推進する

デジタル技術の活用

阿賀町アプリを利用した情報発信、デジタル人材の確保・育成、行政手続き等
のデジタル化推進 など

持続可能なまちづくりの実現

効率的・効果的な財政運営、人材育成の推進、SDGsを原動力とした地方創生の推進 など



重点施策



1 子育て支援の推進・学校教育の充実

妊娠期から子育て期までの切れ目のない総合的な支援により、町の宝である子どもたちや保護者が安心して暮らせるまちづくりを進めます。また、子どもたち一人ひとりが健やかに成長し、阿賀町が大好きで自慢できる子どもを育む教育環境の整備を積極的に進めます。

2 地域の特性を活かした農林水産業の振興

農林水産業の活性化には、生産・加工・販売まで行う6次産業化を図るなど、収益につながる取り組みが重要です。農林水産物の付加価値向上やICT、IoTを活用したスマート農林水産業の推進、森林環境譲与税を効果的に活用した取組を進めます。

3 観光・交流の推進と魅力の発信

阿賀町の観光は、豊かな自然や8つの温泉、米や山菜、発酵食品や日本酒、また会津と越後の歴史など資源が豊富にあります。町全体で魅力づくりとおもてなしを高めるとともに、旬の情報をより効果的に発信し、観光の活性化を図ることで町の元気を創出します。

4 移住定住の推進と関係人口の創出

移住希望者に対する相談体制の確保や空き家の利活用を促進し、移住者が定着しやすい環境の整備に加えて、町に住み続けたい町民が安心して暮らせる住環境の整備を進めます。また、関係人口の創出による積極的な情報発信をすることで、地域と繋がる人や企業を増やし、「関係人口」を地域の力にしていける取組を強化します。

総合計画の検証方法



令和7年8月28日

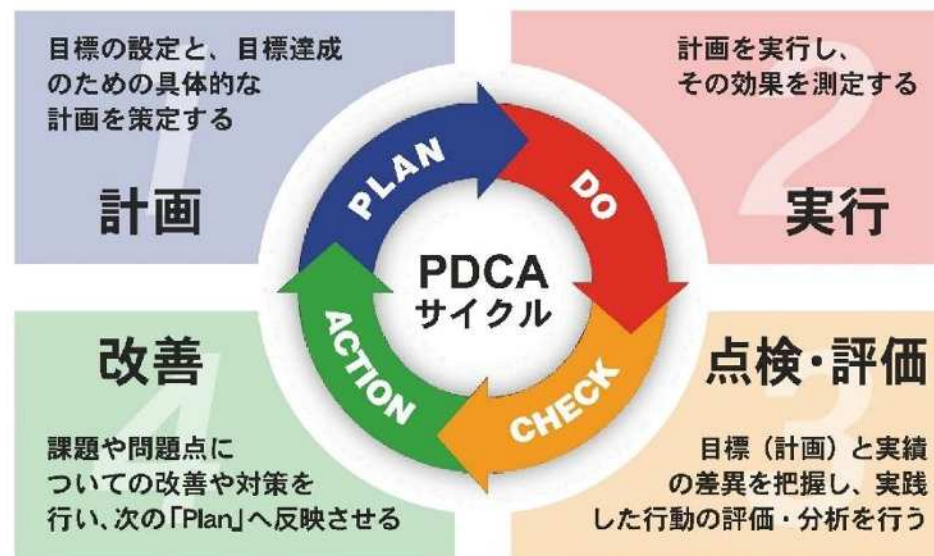
阿賀町総合計画審議会事務局

PDCAサイクルによる定期的な進行管理

総合計画に掲げる施策や実施計画に掲げる事業を着実に実行するためには、定期的に事業内容などの進行管理を行うことが必要です。

そのため、成果を見極めるための数値目標を設定し、「*Plan*（計画）－*Do*（実行）－*Check*（点検・評価）－*Action*（改善）」といった、PDCAサイクルの手法を取り入れた進行管理を行います。また、時代の流れが速く、特にデジタル技術の分野においては目まぐるしい技術革新を遂げていることから、そのような社会情勢の変化も踏まえ、施策・事業の効果を検証し、必要に応じて柔軟な計画内容の見直しを行います。

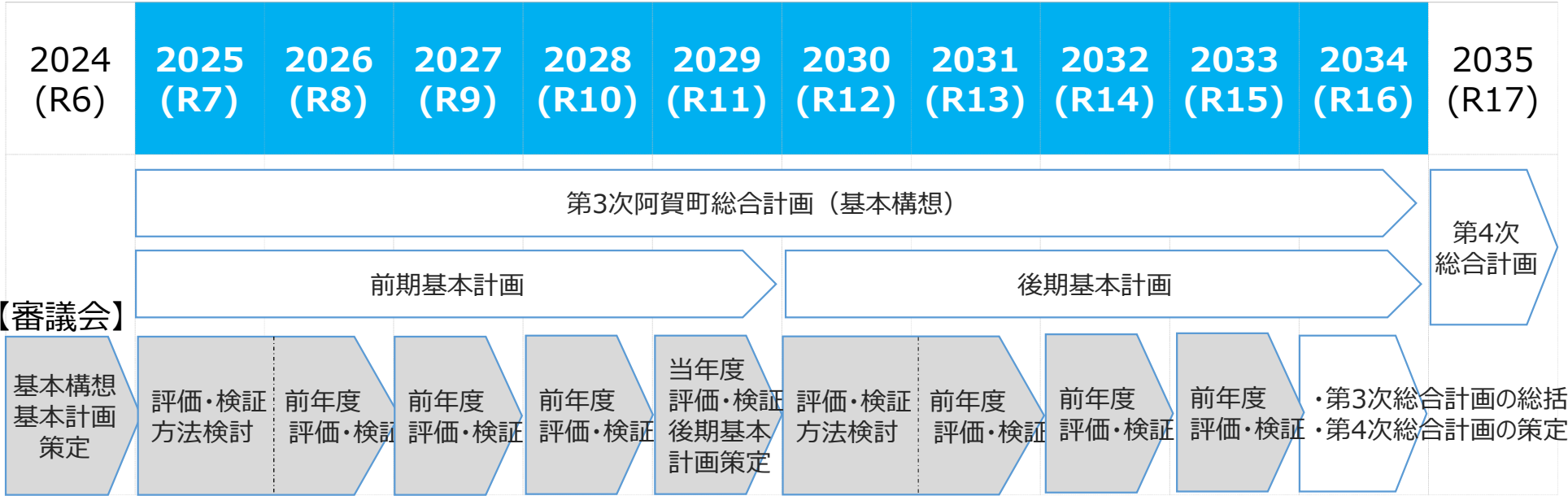
PDCAサイクルによる進行管理イメージ



出典：阿賀町「第3次阿賀町総合計画_P44」

審議会の運営

- 令和7年度は、検証方法（評価・検証の具体的な方法）についての諮問に対し、答申をいただきたい。
- 令和8年度から令和10年度は、前年度の取組について評価・検証を行う。
- 令和11年度は、当年度（年度途中）の評価・検証及び前期基本計画の総括を行い、後期基本計画の策定につなげていく。



目標の設定

- 総合計画の進捗を測るため、
計画における最上位指標として「**達成目標**」を設定
具体的な取組の成果を測る指標として「**数値指標**」を設定
- EBPM（エビデンスに基づく政策立案）の考え方を踏まえ、内閣府が公開している「地域経済分析システム（RESAS）」や「地方創生データ分析評価プラットフォーム（RAIDA）」、各種統計等のデータを活用し、客観的な評価検証を行うことで地域課題の解決を効果的・効率的に推進するとともに、政策決定のプロセスの強化を図る。

達成目標

総合計画全体の進捗状況を測るための指標

人口

前期基本計画における達成目標

2029年度（令和11年度）末の人口 **7, 434人以上**

第3次総合計画における達成目標（最終目標）

2034年度（令和16年度）末の人口 **6, 370人以上**

数値指標

基本計画に掲載の具体的な取組の成果を測る指標

数値指標の例

環境分野

- ・ペレット利用量
- ・クレジット販売数 など

子育て・教育分野

- ・こども家庭センター設置
- ・標準学力検査NRT など

産業分野

- ・農畜産物の販売額
- ・観光入込客数 など

福祉・介護分野

- ・介護職員就職支援助成件数
- ・特定健診受診率 など

検証方法の概要

- 各担当課で作成した「検証シート」をもとに、総合計画審議会の各委員から、それぞれの専門分野や町民目線でのご意見をいただく。
- 外部評価を含めた評価結果全体を公表するとともに、施策実施や予算編成へ反映する。

第3次阿賀町総合計画におけるPDCAサイクル

- ・令和6年度 総合計画の策定及び予算編成・・・*Plan*（計画）
- ・令和7年度 施策実施・検証方法検討・・・*Do*（実行）
- ・令和8年度 検証・見直し・・・*Check*（評価）

→ *Action*（改善）

内部評価

各担当課での検証シート
作成を中心とした施策評
価を実施

- ①数値指標の値を測定
- ②数値指標の値の増減要因分析
- ③今後の改善点・方針を決定

外部評価

内部評価をもとに、総合計
画審議会の各委員からの
ご意見をいただく

公表・反映

外部評価を含めた評価結
果全体を公表するとともに、
事業実施や予算編成へ
反映する

評価方法

【事務局案】

- 各施策ごとに設定されている数値指標は、「年度単位で目標値を達成する指標」、「最終年度までに目標値を達成する指標」、「現状値を維持する指標」の3種類に分類される。
- 数値指標の目指す方向性は、「増加」「減少」「維持」の3種類に分類される。
- これらの数値目標の特性を踏まえて、以下の基準で進捗状況を評価する。

タイプA（年度単位で目標値を達成する指標）

◎（順調）	現状値を維持又は改善し、目標値に達した
○（概ね順調）	現状値を維持又は改善したが、目標値に達しなかった
△（低調）	現状値に及ばなかった
－（評価保留）	隔年実施の調査等の理由により実績値を把握できないため評価保留

タイプAに該当する指標例

指標名	単位	現状値	目標値
ペレット利用量	t/年	507	560
公民館図書室貸出冊数	冊/年	21,073	30,000
住宅を理由とした転出数	人/年	40	37

評価方法

【事務局案】

- 各施策ごとに設定されている数値指標は、「年度単位で目標値を達成する指標」、「最終年度までに目標値を達成する指標」、「現状値を維持する指標」の3種類に分類される。
- 数値指標の目指す方向性は、「増加」「減少」「維持」の3種類に分類される。
- これらの数値目標の特性を踏まえて、以下の基準で進捗状況を評価する。

タイプB（最終年度までに目標値を達成する指標）

◎（順調）	現状値より数値が改善し、目標値に近づいた（目標値を上回るペースで改善）
○（概ね順調）	現状値より数値が改善し、目標値に近づいた（目標値に到達するペースで改善）
△（低調）	現状値より数値が改善したものの、目標値到達には困難なペースで推移又は現状値を維持
－（評価保留）	隔年実施の調査等の理由により実績値を把握できないため評価保留

タイプBに該当する指標例

指標名	単位	現状値	目標値
廃棄物の資源化率	%	15.78	30.00
通所型サービスC実施事業所数	事業所	0	1
将来負担比率	%	65.2	64.0

内部評価

【事務局案】

○数値目標は、令和11年度（2029年度）を目標年次としているため、取組内容及び目標値に対する実績値（把握可能な数値のみ）の増減要因分析を踏まえた総括的な評価を記載する。

【内部評価のイメージ】

No.	指標名（単位）	基準値 （計画策定時点）	目標値 （令和11年度）	方向性	タイプ	1年目 （令和7年度）	進捗状況	指標の増減要因・進捗状況の評価理由
1	地域の里山保全活動(ha/年)	66	75	↗	A	77	◎	○○○○○○○○○
2	森林公園入込客数(人/年)	21,073	30,000	↗	A	20,052	△	○○○○○○○○○
3	耕地面積(ha)	1,030	維持する	→	A	1,030	◎	○○○○○○○○○
4	新規農林業従事者(名/年)	2	2	→	A	2	◎	○○○○○○○○○
5	温室効果ガス排出量(t)	4,766	4,066	↘	B	-	-	○○○○○○○○○
6	こども家庭センター設置	0	1	↗	B	0	△	○○○○○○○○○

外部評価

【事務局案】

- 総合計画審議会では、内部評価資料を基に、委員からご意見をいただく。
- いただいたご意見については、事務局でとりまとめ、総合計画審議会意見として各所管課における事業実施や予算要求のためにフィードバックするとともに、公表する。
- いただいたご意見を踏まえた取組状況については、次年度の総合計画審議会で報告する。

【外部評価のイメージ】

[illegible]

主要指標の進捗状況



令和7年8月28日

阿賀町総合計画審議会事務局

達成目標

○総合計画全体の進捗状況を測るための最上位指標として「**人口**」を設定

指標	基準値 (計画策定時点)	令和7年度		目標値 (令和11年度)	評価
		目安ライン	参考実績 (住基ベース)		
人口（国勢調査ベース）	9,965 (令和2年)	8,641	8,831	7,434	低調

※参考実績（住基ベース）は、令和7年7月末現在の住基人口。

令和7年10月1日現在で国勢調査を実施。

令和8年5月までに人口速報集計を公表予定。（確報は令和8年9月予定。）

○達成指標の推計値算定に用いる指標として「**合計特殊出生率**」を設定

指標	基準値 (計画策定時点)	令和7年度		目標値 (令和11年度)	評価
		目安ライン	実績		
合計特殊出生率	1.01 (令和4年)	1.27 (令和5年)	0.90 (令和5年)	1.27	低調

その他主要指標

○地域別の人口推移（2025年(令和7年) 3月31日時点）

各地域で人口減少が進んでいます。人口構成では、年少人口率及び生産年齢人口率は、津川地域を除いて減少しており、高齢化率は、津川地域を除いて増加しています。町全体でみると、少子高齢化は進んでいます。

	津川地域	鹿瀬地域	上川地域	三川地域	阿賀町全体
地区人口総数（人）	3,137 (△96)	1,428 (△73)	1,839 (△65)	2,468 (△106)	8,872 (△340)
0～14歳人口	186 (△6)	51 (△5)	80 (△13)	160 (△21)	477 (△45)
15～64歳人口	1,424 (△33)	521 (△39)	781 (△38)	1,083 (△51)	3,809 (△161)
65歳以上人口	1,527 (△57)	856 (△29)	978 (△14)	3,137 (△34)	4,586 (△134)
年少人口率（％）	5.9 (0.0)	3.6 (△0.2)	4.4 (△0.5)	6.5 (△0.5)	5.4 (△0.3)
生産年齢人口率	45.4 (0.3)	36.5 (△0.8)	42.5 (△0.5)	43.9 (△0.2)	42.9 (△0.2)
高齢化率	48.7 (△0.3)	59.9 (1.0)	53.2 (1.1)	49.6 (0.7)	51.7 (0.5)

○新潟県内 各市町村の人口減少率（令和4年10月1日～令和5年10月1日比）

人口減少率は、阿賀町4.14%、関川村3.44%、出雲崎町3.05%の順となっています。前年の阿賀町の人口減少率は3.08%（2位）であったため、人口減少に歯止めがかかっていない状況にあります。

順位	市町村	減少率
1	阿賀町	▲4.14%
2	関川村	△3.44%
3	出雲崎町	△3.05%
4	佐渡市	△2.58%
5	糸魚川市	△2.31%
6	津南町	△2.24%
7	村上市	△2.18%
8	十日町市	△2.01%
9	加茂市	△1.97%
10	柏崎市	△1.82%

～

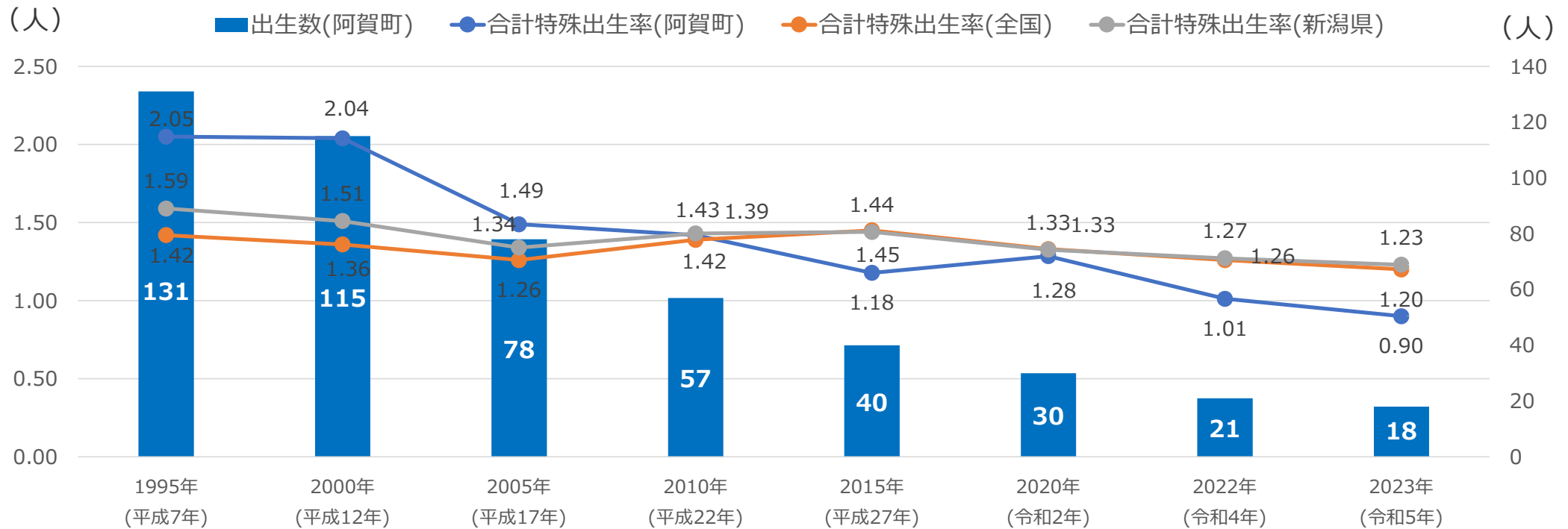
順位	市町村	減少率
21	長岡市	△1.19%
21	三条市	△1.19%
23	見附市	△1.18%
24	南魚沼市	△1.14%
25	上越市	△1.10%
26	燕市	△1.00%
27	粟島浦村	△0.90%
28	新潟市	△0.81%
27	聖籠町	△0.35%
30	湯沢町	△0.23%

その他主要指標

○合計特殊出生率と出生数

合計特殊出生率は、2023年（令和5年）に0.90人となり、前年比10.9%減少しています。

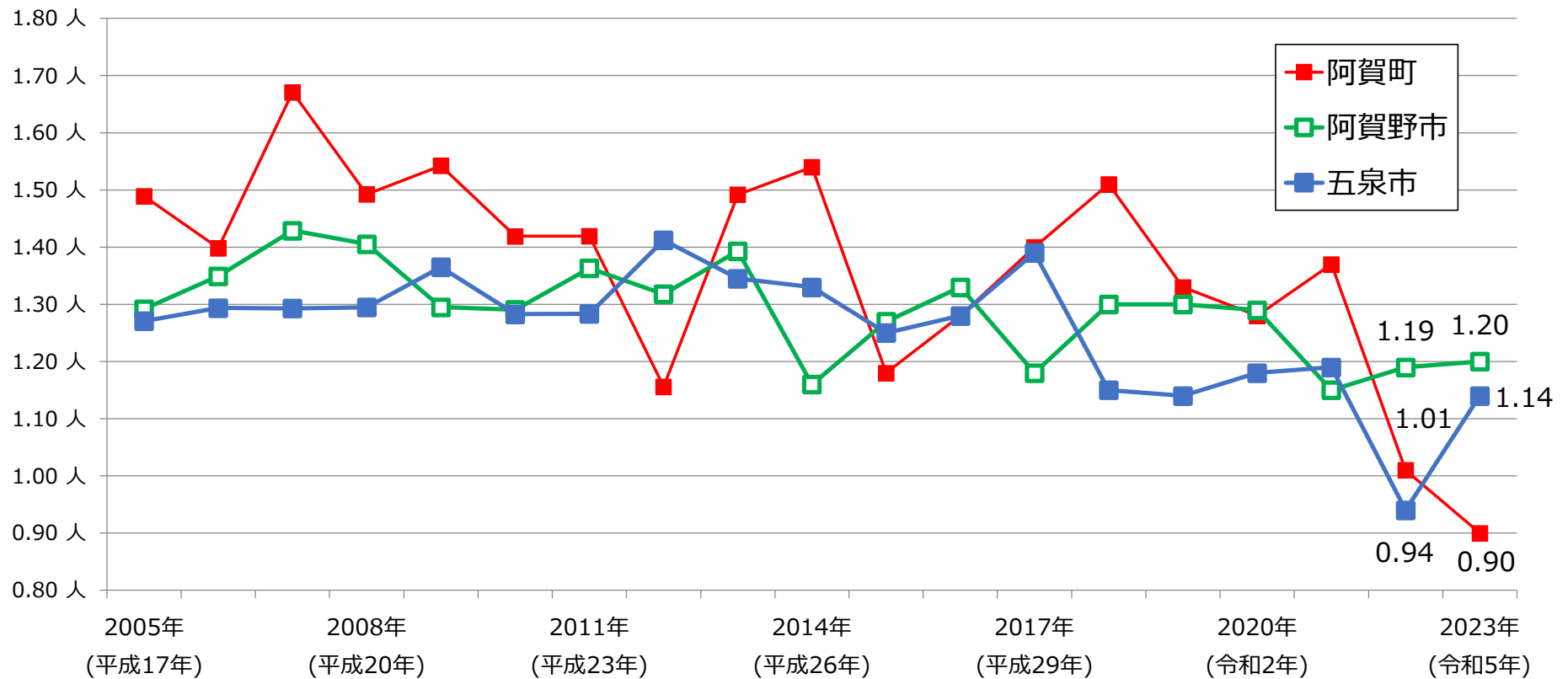
出生数も減少傾向にあり、2023年（令和5年）に18人となり、前年比14.3%減少しています。



その他主要指標

○阿賀町と近隣市町村の合計特殊出生率の推移

阿賀町の合計特殊出生率は減少しているものの、近隣市町村の阿賀野市（前年比17.5%改善）及び五泉市（前年比0.8%改善）とともに、合計特殊出生率は改善傾向にあります。



その他主要指標

○新潟県内 各市町村の出生率（人口千人当たり）

令和5年の阿賀町の出生率（1,000人当たり）は2.0で、県平均の5.2を大きく下回り、県内で最下位となっています。

順位	市町村	出生率
	県平均	5.2
1	聖籠町	7.8
2	見附市	5.8
3	新潟市	5.7
4	燕市	5.7
5	長岡市	5.5
6	新発田市	5.4
7	上越市	5.2
7	南魚沼市	5.2

～

順位	市町村	出生率
21	加茂市	3.5
21	胎内市	3.5
23	妙高市	2.0
24	関川村	3.2
25	田上町	3.1
26	粟島浦村	3.0
27	津南町	2.7
28	弥彦村	2.3
27	出雲崎町	2.3
30	阿賀町	2.0

その他主要指標

○新潟県内 各市町村の婚姻件数（人口千人当たり）

令和5年の阿賀町の婚姻件数（1,000人当たり）は1.1で、県平均の3.0を大きく下回り、県内で29位となっています。

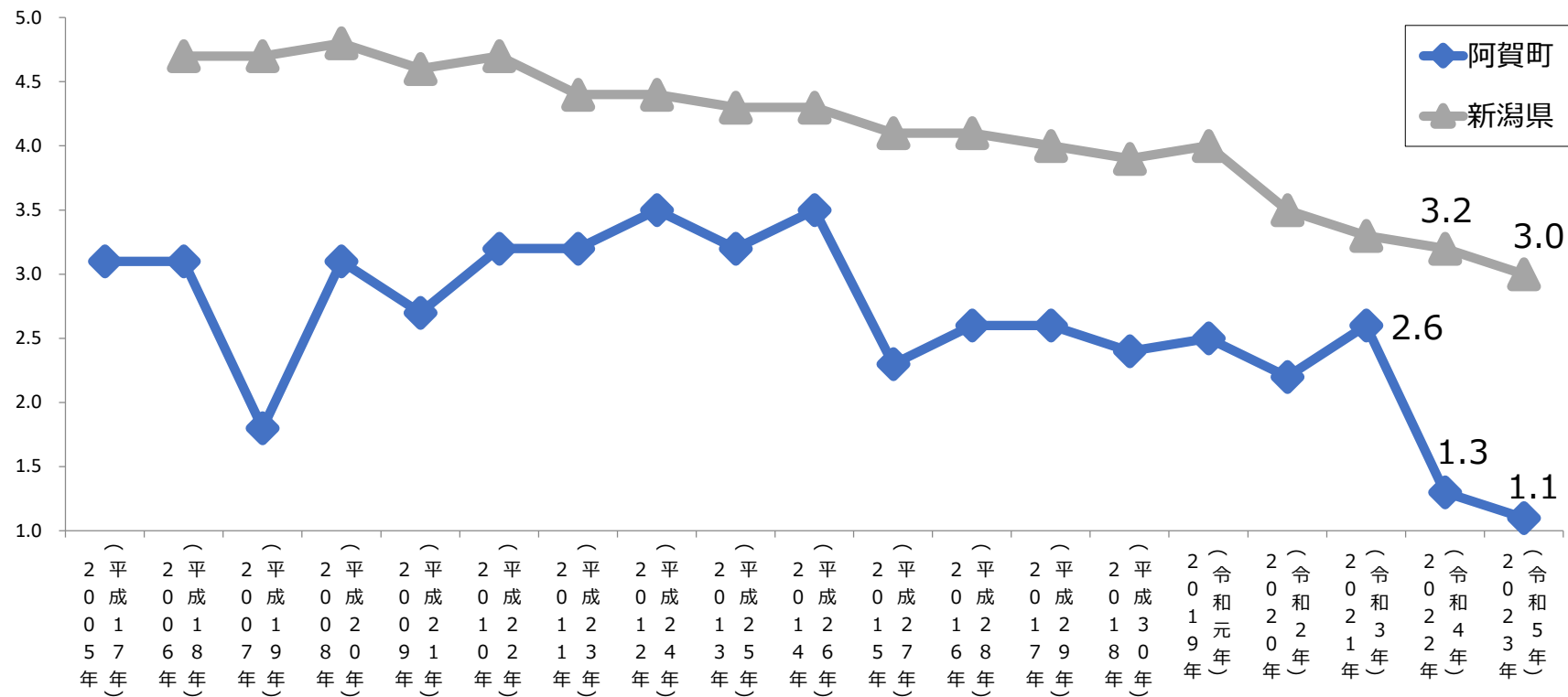
順位	市町村	婚姻率（件）
	県平均	3.0
1	粟島浦村	6.0
2	聖籠町	3.5
3	新潟市	3.3
4	上越市	3.2
5	新発田市	3.1
6	燕市	3.1
7	長岡市	3.0
8	三条市	2.8

～

順位	市町村	婚姻率（件）
21	十日町市	2.1
21	村上市	2.1
23	妙高市	2.0
23	阿賀野市	2.0
23	津南町	2.0
26	加茂市	1.7
27	弥彦村	1.6
28	刈羽村	1.4
29	阿賀町	1.1
30	出雲崎町	0.3

○婚姻件数の推移

婚姻件数は減少傾向にありますが、近年その減少率は加速傾向にあります。
2022年（令和4年）と比べ0.2件減少しています。



デジタル田園都市国家構想交付金事業の効果検証



令和7年8月28日

阿賀町総合計画審議会事務局

1.効果検証の目的

デジタル田園都市国家構想交付金の具体的な施策に関する客観的な重要業績指標（KPI:Key Perfomance Indicator）について、その達成状況を行政の中だけで行うのではなく、学識経験者等の第三者の意見を求めて検証することにより、評価の妥当性や客観性、透明性及び公平性を確保することを目的とする。（地方創生拠点整備交付金制度要綱第9、第10及び地方創生推進交付金制度要綱第11及び第12に規定）

2.効果検証体制

関係団体や「産官学金」等で構成される「阿賀町総合計画審議会」で効果検証し、その結果を阿賀町議会全員協議会において報告して意見を徴し、必要に応じて事業内容の見直しを検討する。効果検証結果については、阿賀町ホームページで公表する。

3.効果検証対象事業

（1）地方創生拠点整備交付金（令和2年度補正予算・繰越明許）

【事業名称】 遊休施設のリノベーションによる学びサイクルプロジェクト拠点整備事業

目的・概要 「あがまちなびサイクルプロジェクト」に基づく遊休施設を活用した施設整備事業。

（2）地方創生拠点整備交付金（令和4年度補正予算）

【事業名称】 阿賀町観光拠点プロジェクト（阿賀の里拠点整備）

目的・概要 道の駅阿賀の里を魅力ある観光拠点として整備し、交流・関係人口の拡大に繋げる事業。

資料4 デジタル田園都市国家構想交付金事業の効果検証

地方創生拠点整備交付金
(ハード事業)

遊休施設のリノベーションによるまなびサイクルプロジェクト拠点整備事業
○総事業費：37,461,600円 (うち交付金13,197,000円)

事業内容

○町の社会課題を解決するための学びの場をととして、ソーシャルビジネスや起業により社会課題を題材にして地域で稼ぐ力を創出するまちになっていくサイクルを生み出す拠点を整備した。

目標達成・未達の理由

- 「拠点施設で生まれた起業数」については、二次交通の不便さ、Wi-Fi環境の不安定さ、個室ブースがなくオンラインミーティングができないなど環境面に対する不満が要因であると考えられる。
- 「阿賀黎明高等学校在籍者数」については、みらい留学オンライン説明会、現地説明会を実施し、入寮者の増加に繋がったものの、町内における少子化に歯止めがかかっておらず、在籍者数の増加には至っていない。
- 「まなびの森交流館、探究の森交流館利用者数」については、InstagramやGoogleマップの情報をみて来店する利用者が増えており、若年層を中心に利用頻度が向上している。平日の利用者増が課題。

事業効果

○高校入学者数や施設利用者数の増加に資することができ、地域の活性化に一定程度寄与しているものの、起業まで繋げるには環境整備や気運の醸成等高いハードルがある。

実施した工夫

- 探究の森交流館「風舟」では、周りを気にせずウェブ会議等を行うための個室として、防音ボックスを設置するなど環境改善に着手している。
- 「風舟」の存在を広く知ってもらい、気軽に訪れることができる場所として認識してもらうためのイベントを実施。高校生や大学生もスタッフとして参加し、地域コミュニティの活性化にも寄与することができた。

資料4 デジタル田園都市国家構想交付金事業の効果検証

地方創生拠点整備交付金
(ハード事業)

遊休施設のリノベーションによるまなびサイクルプロジェクト拠点整備事業
○総事業費：37,461,600円 (うち交付金13,197,000円)

KPI (重要業績評価指標) 達成状況

KPI (重要業績評価指標)	事業開始前		1年目増加分 (R3)	2年目増加分 (R4)	3年目増加分 (R5)	4年目増加分 (R6)	5年目増加分 (R7)
拠点施設で生まれた起業数(人)	0	目標値	1	2	2	2	2
		実績値	今年度オープンのため未集計	0	0	0	
阿賀黎明高等学校 在籍者数(人)	83	目標値	10	10	10	15	15
		実績値	△5	△33	△37	△34	
まなびの森交流館、 探究の森交流館利 用者数(人)	0	目標値	1,000	1,800	2,500	3000	3300
		実績値	今年度オープンのため未集計	2,598	3,569	3,650	

あがまちなびサイクルプロジェクト説明資料

■あがまちなびサイクルプロジェクト

【地域住民】

- ・地域に生まれた活力を吸収し、地域活動を活性化することができる
- ・地域課題を活かした小さなビジネスを立ち上げることができる

【高校生の入口】

「まなびの森交流館」
(学生寮兼交流施設)
学生寮
高校生と地域住民の探究活動

求心力・行動力

【高校生】

- ・自律的に考え、学び、行動することができる
- ・ふるさとを自らつくることができる

【地域住民の入口】

地域課題の提供

「清川高原保養センター1号館」
(日帰り温泉・簡易宿泊)

- ・温泉利用者の地域活動
- ・地域住民の地域活動
- ・高校生による温泉経営・企画への参画
- ・物販(地域事業者・高校生による探究活動)
- ・町内事業者によるランチ営業(シェアキッチン)

資源や課題を題材にした
まなびサイクル

【外部人材の入口】

「探究の森交流館」
(外部に開かれた交流施設)

- ・コワーキングスペースやシェアキッチンを活用した地域住民と高校生、外部人材による探究活動・地域活動
- ・図書館(販売可能)
- ・自習室
- ・会議利用、シェアオフィスが可能な会議室
- ・シェアレジデンス(おためし滞在)
- ・物販

知識・技術

【外部人材】

- ・課題を解決することにより、地域で目に見える貢献ができる
- ・地域住民との関係の深化により、精神的な豊かさを感じられる



黎明学舎生による
温泉かき氷カフェ
@清川高原(2019.12.20)

高知県立嶺北高校
の寮の近くにある
コ・ラーニングスペース
「あこ」(2019.11.20)



資料4 デジタル田園都市国家構想交付金事業の効果検証

地方創生拠点整備交付金
(ハード事業)

阿賀町観光拠点プロジェクト(阿賀の里拠点整備) (ハード事業)

○総事業費: 392,745,000円 (うち交付金194,953,616円)

事業内容

○道の駅阿賀の里を、子どもも大人も楽しめる道の駅へリニューアルし、交流・関係人口の拡大に繋げる。また、情報発信拠点として整備することにより、町内の温泉や宿泊施設、飲食店等への観光施設周遊を促進する。

目標達成・未達の理由

- 令和6年6月2日にオープンした屋内遊戯施設「あがりーな」は、子供連れ家族の来場が非常に多くなり、相乗効果で阿賀の里の入込客数も多くなった。
- 「道の駅阿賀の里売上額」については、ファミリー層の来場者が多くなったことで、特に食品部門において大きく売り上げが増加した。
- 「町内宿泊施設利用者数」については、24,773人と前年に比べて1,197人減少しており、観光拠点施設としての狙いである町内への波及効果はまだ低いと考えられる。

事業効果

- 「あがりーな」は令和6年6月にオープンして間もないが、屋内遊戯施設の土日の入り込みの平均が957人、平日が170人の入場者があり、期待通り阿賀の里施設全体の入込客数や売上額への波及効果が見られたものの、町内の観光施設や宿泊施設へ良い影響をもたらすまでには至っていない。

実施した工夫

- モンドセレクション受賞の米3銘柄をはじめ、山菜や原木まいたけ、川がに、雪下にんじん等、地域性のある商品を多く店頭陳列し、見て楽しく買って喜ばれる店舗づくりに努めた。
- ファミリー層向けにラーメンやカレー、おにぎりの子供セットをメニューに加えた。また、おにぎりの評判が 5
よく、これが売店の米販売の売り上げにも好影響を与えたものと考えられる。

資料4 デジタル田園都市国家構想交付金事業の効果検証

地方創生拠点整備交付金 阿賀町観光拠点プロジェクト（阿賀の里拠点整備）（ハード事業）
（ハード事業） ○総事業費：392,745,000円 （うち交付金194,953,616円）

KPI（重要業績評価指標）達成状況

KPI (重要業績評価指標)	事業開始前		1年目増加分 (R5)	2年目増加分 (R6)	3年目増加分 (R7)	4年目増加分 (R8)	5年目増加分 (R9)
道の駅阿賀の里入込 客数（人）	91,120	目標値	0	30,000	5,000	15,000	10,000
		実績値	0	337,633			
道の駅阿賀の里売上 額（千円）	156,743	目標値	0	12,000	2,000	6,000	4,000
		実績値	0	61,870			
町特産品 E C サイト 商品提供者数（人）	10	目標値	0	3	3	3	3
		実績値	0	10			
町内宿泊施設利用者 数（人）	25,970	目標値	0	50	150	200	200
		実績値	0	△1,197			